

第4回 積丹町防災訓練

11月7日、土砂災害時の初動体制の確認、国・道等防災関係機関との情報共有と連携強化を目的に、第4回目となる積丹町独自の防災訓練を実施しました。

集落孤立訓練の想定

今年8月に広島県で豪雨により、過去最大規模の被害者を出す土砂災害が発生したほか、道内においても同月、利尻島・礼文島で「50年に1度」と言われる大雨による土砂災害が発生し、地域住民の命と暮らしに甚大な被害をもたらしました。これらの事例を教訓に、町では今回の訓練で「大雨による土砂災害」を想定しました。

想定として、前日から大雨による雨量規制により、神恵内側の国道が通行止めとなっていたことに加え、午前7時には西河町で土砂崩れが発生し、神岬・余別・来岸・西河の4集落が孤立。また、午前8時30分には、来岸町でも土砂崩れが発生し、家屋被害に加え、負傷者が発生。さらに、大雨という気象条件のため、

ヘリを活用した空路による救助は行えないという内容とし、当町が抱える半島特有の厳しい地理的条件を踏まえた訓練を行いました。

あらゆるルート、「道」の可能性を探る

野塚く浜西河間の国道通行止めの状況下で、来岸町での土砂崩れによる負傷者救助のため、北後志消防組合積丹支署職員と同消防団員による救助隊を編成して、野塚ウインドから農道と国有林積丹林道を活用した総距離約11kmを、車両と徒歩で移動し、山西河集落に抜ける造林作業路の所要時間や有効性を確かめました。

また、当日は、負傷者の搬送手段として、小樽海上保安部の巡視艇を活用した訓練を予定しましたが、波が高く中止となり、巡視艇より大き

な巡視船が入港できる漁港整備が課題となりました。

消防団も独自の訓練

孤立した4集落でも、一般町民55人が参加して土砂災害警戒情報の発表による町からの避難勧告発令にあわせ、指定された会館等に避難しました。

また、余別地区コミュニティセンター前では、消防団員が昨年総務省消防庁より全道で3台のうち1台の無償貸付を受けた救助資機材搭載型消防車両の展示のほか、同資機材を使用した倒壊家屋に閉じ込められた負傷者を想定した救助訓練を実施しました。また、NTT東日本によるポータブル衛星車や、北海道電力小樽支店によるガスタービン移動発電機車の展示も行われました。

開発局の優れた通信設備も

小樽開発建設部は衛星移動通信車を余別町に配置し、衛星通信を利用した撮影画像を役場に伝送する衛星小型伝送装置を活用した通信訓練を行ったほか、町では自衛隊災害派遣要請や巡視艇派遣要請の際の通信訓練も行いました。

北海道コカコーラ株より 自販機飲料水が寄贈

北海道コカコーラボトリング株と町は、平成21年12月、災害時における飲料水の確保と平常時の地域防災力強化のため、「災害対応型自動販売機による協働事業に関する協定」を締結しており、今回の防災訓練では、同社の地域貢献活動の一環として、役場の自動販売機から飲料水120本の寄贈をいただきました。





高台への避難訓練を実施



衛星移動通信車から伝送された画像を視聴



国有林積丹林道って何？

国と町が連携し、森林整備を進めるための「積丹地域森林整備推進協定」が平成20年11月に（独）森林総合研究所森林農地整備センター札幌水資源林整備事務所・石狩森林管理署・積丹町の3者間で締結され、相互に利用できる作業道等の路網の整備を進めてきました。国有林積丹林道はこの協定に位置づけられている林道で、道内の他地域からも注目されています。



国有林積丹林道を活用し、救助活動へ向かう消防署員・団員

陸上自衛隊による生地訓練

10月23日と24日には、陸上自衛隊11特科隊第3中隊（佐々木英壽中隊長）の21名の隊員による生地訓練が実施されました。

この訓練は、町内の各集落の地勢や現況を事前に把握することにより、緊急災害派遣要請があった際に、より迅速な行動に資するために行われているもので、今回は国有林積丹林道から山西河に抜けるルートを訓練場所とし、車両通行が難しい一部箇所を徒歩による林道の啓開や二輪車を使用した現場の状況把握や救助・救援活動の訓練が行われました。



10月24日には道原子力防災訓練も

10月24日には北海道原子力防災訓練がUPZ（泊発電所から半径30キロ圏内）の後志管内13町村で行われ、当町は、今回入舸管内を対象に、公共施設への屋内退避訓練、広報訓練を実施し、40人の一般町民が参加しました。

また、公共施設への避難後の昼食の際には、当町を隊区とする災害派遣部隊、陸上自衛隊11特科隊第3中隊（札幌市真駒内）が所有する湯煎装置を使用し、用意した非常用食料の迅速な提供にご協力をいただきました。

